

# 強者の戦略

【東京大学の問題にチャレンジ！第2弾】

未来の強者のみなさん、こんにちは、世界史の北林です。最近めっきり朝晩がさむくなりましたが、お元気ですか？体が資本ですので、風邪など引かぬよう、体調管理も万全でいてくださいね。

さて今回は、現在開講されているインターネット授業 E-Lecture「東大論述世界史スパルタン」の中でもあつかった問題を出しましたが、今回も再び東大の問題にチャレンジしていただきたいと思います。

今回は南北アメリカの問題です。前回同様、解答を完成させなくてもいいですから、何をみてもかまわないので構成を考えてみましょう。

## 問題

アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国は、ともにヨーロッパ諸国の植民地として出発した。しかし、独立後は、イギリスの産業革命などの影響の下で対照的な道を歩むことになった。たとえば、アメリカ合衆国の場合には、急速な工業化を実現していったのに対して、ラテンアメリカ諸国の場合には、長く原材料の輸出国の地位にとどまってきた。そしてラテンアメリカ諸国は、政治的にも経済的にもアメリカ合衆国の強い影響下におかれることになったが、その特徴は、現在のラテンアメリカ諸国のあり方にも大きな影響を及ぼしている。

そこで、18世紀から19世紀末までのアメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の歴史について、その対照的な性格に留意しつつ、ヨーロッパ諸国との関係や、合衆国とラテンアメリカ諸国との相互関係のあり方の変化を中心に、下に示した語句を一度は用いて、解答欄(イ)に15行(1行30字)以内(450字)で記せ。なお、使用した語句に必ず下線を付せ。

プランテーション

パン・アメリカ会議

南北戦争

ウィーン体制

自由貿易主義

モンロー宣言

クリオーリョ

米英戦争

(東京大学 1998年)